

# 2021年3月期 第2四半期決算説明資料

証券コード：5332

2020. 10.30

## 清田略歴

### ◆ 清田 徳明

#### ◆ 学歴

長崎大学 経済学部 卒業（1984年3月）

#### ◆ 経歴

1984年4月：入社

2002年9月：レストルーム事業企画部長 兼 ウォシュレット企画部長

2005年4月：国際事業部長

2007年4月：衛陶生産本部長

2009年4月：レストルーム事業部次長 兼  
TOTOウォシュレットテクノ株式会社社長

2010年4月：執行役員 レストルーム事業部長

2012年6月：取締役 常務執行役員 レストルーム事業部担当

2014年4月：取締役 専務執行役員 レストルーム事業部、  
機器水栓事業部担当

2015年4月：取締役 専務執行役員 システム商品グループ、機器水栓事業部担当

2016年4月：代表取締役 副社長執行役員  
事業部門管掌、機器水栓事業、内部監査役室担当 兼 Vプランマーケティング革新担当

2020年4月：代表取締役 社長執行役員



## 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて

新型コロナウイルス感染症拡大により、「不確実で曖昧」「変化が激しくより複雑化」という動きが加速。

「当たり前前のごことが当たり前でなくなった」世界で、  
TOTOの存在意義とは何か  
という根源的な問いが突きつけられた。



### TOTOは

- 世のため人のため、役立っている企業なのか
- 社会やお客様に、どのような価値を提供できるのか
- 我々の「使命」とは何か
- 本当に必要とされる企業なのか

## 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて

### 未来永劫変わることの無く引き継がれる 創立者の想い・企業理念に全ての答えはある

#### ■ 創立者の想い

- ・ どうしても親切が第一
- ・ 奉仕の観念
- ・ 良品の供給、需要家の満足が掴むべき実体

どうしても親切が第一  
奉仕観念を以て  
仕事を前進め下され度  
良品の供給、需要家の満足が  
掴むべき実体です。  
此の実体を握り得れば  
利益・報酬として影が映ります。  
利益という影を追う人が  
世の中には多いもので  
一生実体を捕らえずして  
終わります。

先人の言葉



初代社長 大倉和親

#### ■ 企業理念

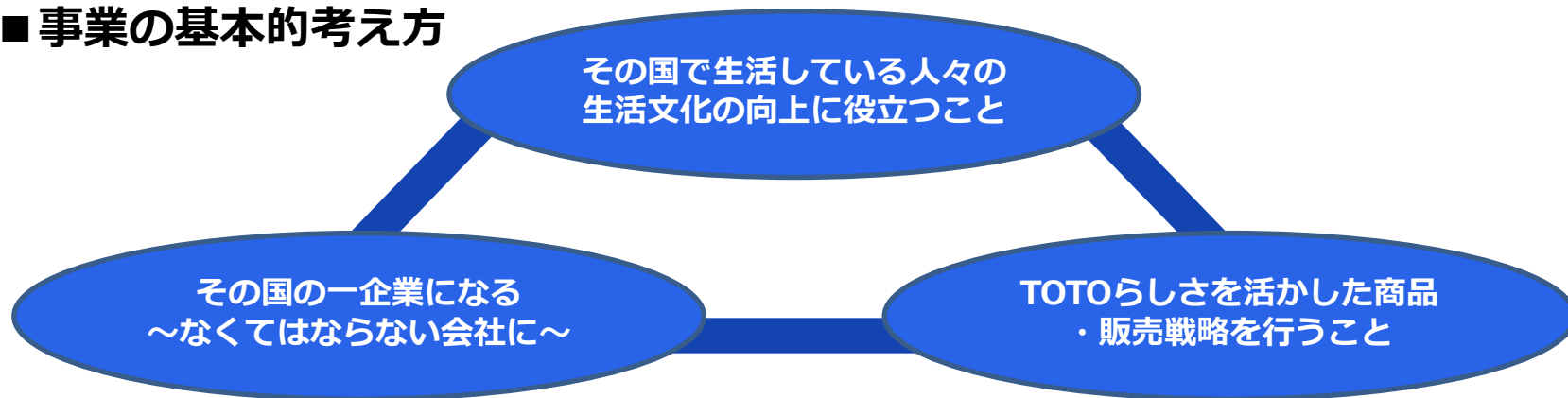
私たちTOTOグループは、社会の発展に貢献し、  
世界の人々から信頼される企業を目指します。  
そのために

- ・ 水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造します。
- ・ さまざまな提案を通じ、お客様の期待以上の満足を目指します。
- ・ たゆまぬ研究開発により、質の高い商品とサービスを提供します。
- ・ 限りある資源とエネルギーを大切にし、地球環境を守ります。
- ・ 一人ひとりの個性を尊重し、いきいきとした職場を実現します。

「先人たちが築き上げてきた理念」が私たちの財産。  
この想いは今後も何一つ変わることが無く、これが「ありたい姿」に繋がっている。

# 世界中にTOTOファンを増やしていく

### ■ 事業の基本的考え方



### ■ TOTOグループで働く全ての人

企業理念に基づく事業活動が、現地の生活文化の発展・向上の一助となっていて、これは「誰か」ではなく「自分」がその一翼を担っているという自覚とTOTOグループの一員としての誇りを持った集団としたい。

# 目次

---

## 1. 2021年3月期 第2四半期決算

---

## 2. トピックス

---

## 3. 2021年3月期 計画

---

## 4. 持続可能な社会の実現に向けて

## ハイライト

### 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減収減益

#### グローバル住設事業（日本）：減収減益

- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済活動が制限され、ショールームの臨時閉鎖等により減収減益。

#### グローバル住設事業（海外）：減収営業利益横ばい \* 1月～6月（インド除く）

- ◆中国は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減収減益。
- ◆アジアはベトナム等における新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減収も、台湾が堅調で微増益。
- ◆米州は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく減収も、ウォシュレット需要急増により増益。

#### 新領域事業：増収赤字幅縮小

- ◆セラミック事業は半導体市場の需要増により増収増益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## P/L概要

単位：億円

	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)	計画	計画差 (計画比)
売上高	2,963	2,575	▲388 (▲13%)	▲353	▲35 (▲1%)	▲369 (▲12%)	2,500	+75 (+3%)
営業利益 【営業利益率】	175 【5.9%】	106 【4.1%】	▲69 (▲39%)	▲98	+30 (+17%)	▲66 (▲38%)	60 【2.4%】	+46 (+77%)
経常利益	179	103	▲76 (▲43%)	▲101	+25 (+14%)	▲75 (▲42%)	-	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	124	46	▲78 (▲63%)	▲86	+8 (+6%)	▲78 (▲63%)	-	-

## ■為替レート

	2019年度 1Q	2019年度 2Q	2020年度 1Q	2020年度 2Q
1ドル	110.2円	109.9円	108.9円	107.6円
1元	16.3円	16.1円	15.6円	15.2円
1ユーロ	125.2円	123.5円	120.1円	118.6円



# 2021年3月期 第2四半期決算

## セグメント別業績

単位：億円

<売上高>	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス	コロナウイルス影響額除	為替影響除	計画	計画差 (計画比)
				影響額	(前年比)	(前年比)		
住設事業 (日本)	2,188	1,877	▲311 (▲14%)	▲222	▲89 (▲4%)	▲311 (▲14%)	1,800	+77 (+4%)
住設事業 (海外)	655	571	▲84 (▲13%)	▲125	+41 (+6%)	▲66 (▲10%)	575	▲4 (▲1%)
新領域	119	126	+8 (+7%)	▲6	+13 (+11%)	+9 (+7%)	125	+1 (+1%)
その他	1	1	▲0	-	▲0	▲0	0	+1
合計	2,963	2,575	▲388 (▲13%)	▲353	▲35 (▲1%)	▲369 (▲12%)	2,500	+75 (+3%)
<営業利益>	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス	コロナウイルス影響額除	為替影響除	計画	計画差 (計画比)
				影響額	(前年比)	(前年比)		
住設事業 (日本)	130	48	▲82 (▲63%)	▲69	▲13 (▲10%)	▲82 (▲63%)	5	+43 8.5倍
住設事業 (海外)	70	70	▲0 (▲0%)	▲27	+27 (+39%)	+2 (+4%)	70	▲0 (▲0%)
新領域	▲8	▲1	+7	▲2	+9	+7	0	▲1
その他	▲17	▲11	+7	-	+7	+7	▲15	+4
合計	175	106	▲69 (▲39%)	▲98	+30 (+17%)	▲66 (▲38%)	60	+46 (+77%)

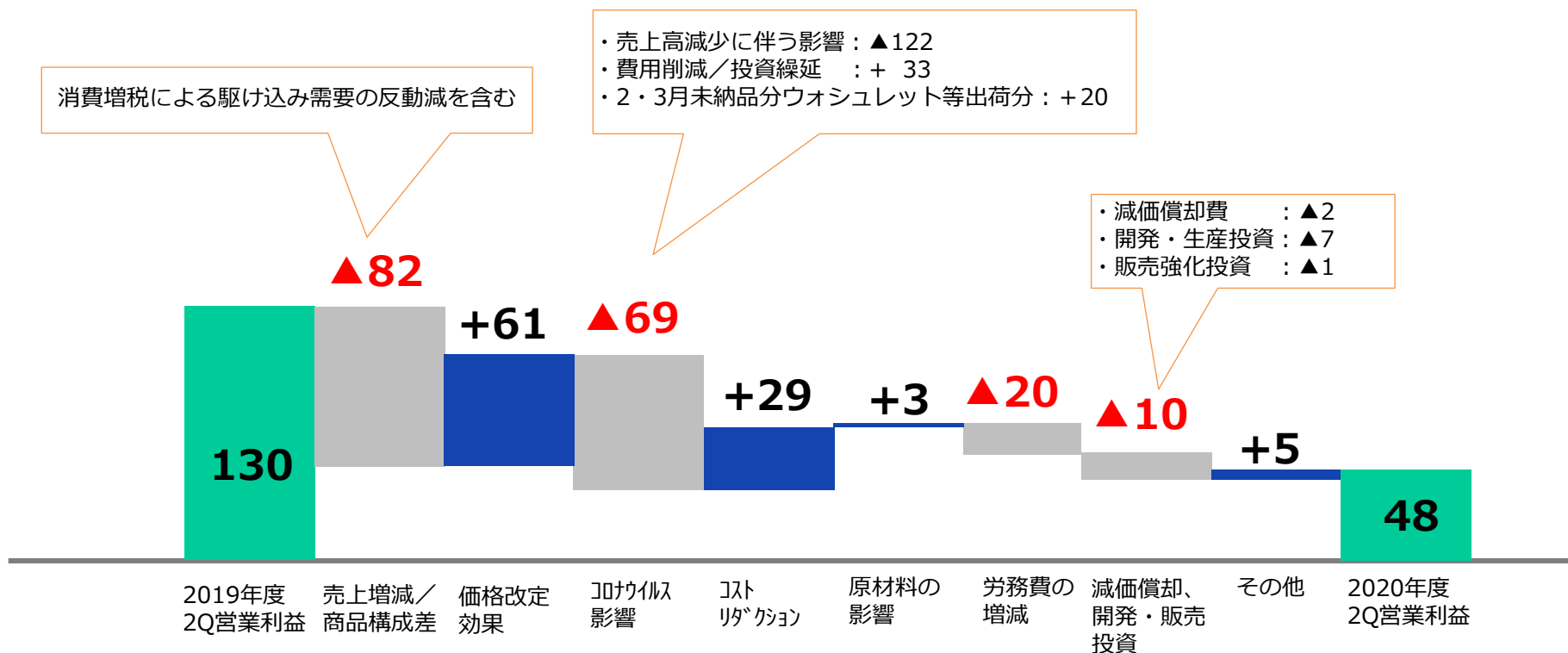
日本は減収減益、海外は減収営業利益横ばい、新領域は増収赤字幅縮小。  
新型コロナウイルス感染症の影響は売上高▲353億円、営業利益▲98億円。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## グローバル住設事業（日本）

### 営業利益の増減要因（前年差異▲82億円の内訳）

単位：億円



計画	▲87	+48	▲100		+14		5
計画差	+5	+13	+31		▲7		+43

# 2021年3月期 第2四半期決算

## グローバル住設事業（日本）

### 需要別実績

単位：億円

#### <リモデル>

	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	1,503	1,261	▲242 (▲16%)	▲177	▲64 (▲4%)
営業利益	109	39	▲69 (▲64%)	▲58	▲11 (▲10%)
営業利益率	7%	3%	▲4pt	—	—

#### <新築>

	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	685	615	▲70 (▲10%)	▲45	▲25 (▲4%)
営業利益	22	9	▲13 (▲60%)	▲11	▲2 (▲9%)
営業利益率	3%	1%	▲2pt	—	—

リモデル・新築とも、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減収減益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## グローバル住設事業（日本）

### 商品別実績

単位：億円

<売上高>	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
衛生陶器	459	408	▲51 (▲11%)	▲38	▲13 (▲3%)
ウォシュレット	486	480	▲6 (▲1%)	▲0	▲6 (▲1%)
水栓機器	437	373	▲64 (▲15%)	▲44	▲20 (▲5%)
浴室	537	400	▲137 (▲25%)	▲100	▲37 (▲7%)
キッチン・洗面	235	184	▲51 (▲22%)	▲38	▲14 (▲6%)
その他	34	32	▲3 (▲7%)	▲2	▲0 (▲1%)
合計	2,188	1,877	▲311 (▲14%)	▲222	▲89 (▲4%)

<営業利益>	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除
衛生陶器	33	9	▲24	▲19	▲6
ウォシュレット	59	68	+9	6	+2
水栓機器	23	8	▲15	▲12	▲3
浴室	17	▲15	▲32	▲30	▲2
キッチン・洗面	4	▲13	▲17	▲14	▲3
その他	▲6	▲9	▲3	▲0	▲2
合計	130	48	▲82	▲69	▲13

全商品で新型コロナウイルス感染症による影響を受けた。ウォシュレットは前期に  
出荷できなかった受注分の影響等などがあり、増益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## グローバル住設事業（海外）

単位：億円

売上高	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 前年差 (前年比)	為替影響除 前年差 (前年比)
中国	324	265	▲59 (▲18%)	▲58	▲1 (▲0%)	▲45 (▲14%)
アジア	148	132	▲16 (▲11%)	▲28	+12 (+8%)	▲16 (▲11%)
米州	163	155	▲8 (▲5%)	▲36	+28 (+17%)	▲6 (▲3%)
欧州	20	19	▲1 (▲5%)	▲3	+2 (+12%)	▲0 (▲1%)
合計	655	571	▲84 (▲13%)	▲125	+41 (+6%)	▲66 (▲10%)

営業利益	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 前年差 (前年比)	為替影響除 前年差 (前年比)
中国	47	44	▲3 (▲6%)	▲9	+6 (+13%)	+0 (+0%)
アジア	22	23	+0 (+1%)	▲13	+13 (+59%)	▲0 (▲0%)
米州	5	7	+2 (+47%)	▲4	+7 (+135%)	+2 (+50%)
欧州	▲4	▲4	▲0	▲1	+1	▲0
合計	70	70	▲0 (▲0%)	▲27	+27 (+39%)	+2 (+4%)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減収営業利益横ばい。  
米州はウォシュレットの販売拡大により増益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績（中国）（1月～6月）

※連結調整、共通費の配賦等は含まないベース

P/L

単位：百万元

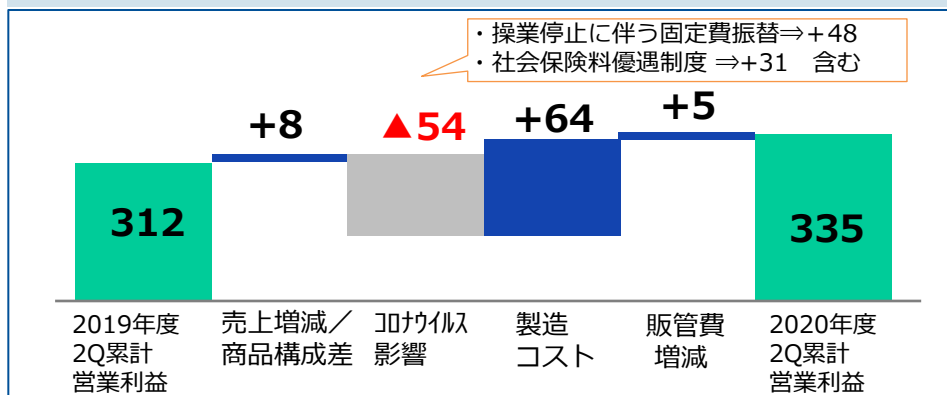
	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	1,992	1,724	▲268 (▲13%)	▲357	+88 (+4%)
営業利益	312	335	+23 (+7%)	▲54	+77 (+25%)
営業利益率	16%	19%	+4pt	-	+3pt

第3四半期(7月～9月)の売上高伸長率は前年同期比+25%

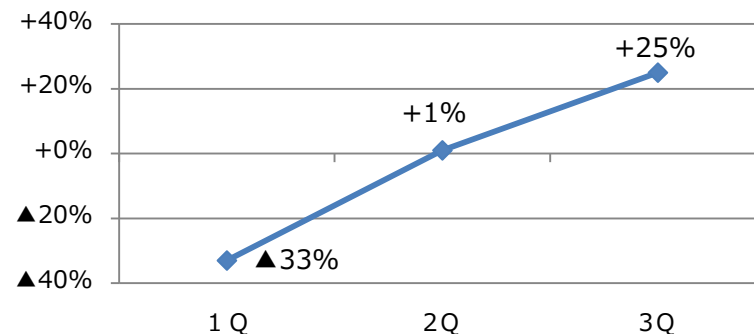
為替レート	2019年度 2Q	2020年 2Q
1元	16.1円	15.2円

### 営業利益の増減要因

単位：百万元



### 売上高推移（前年比）



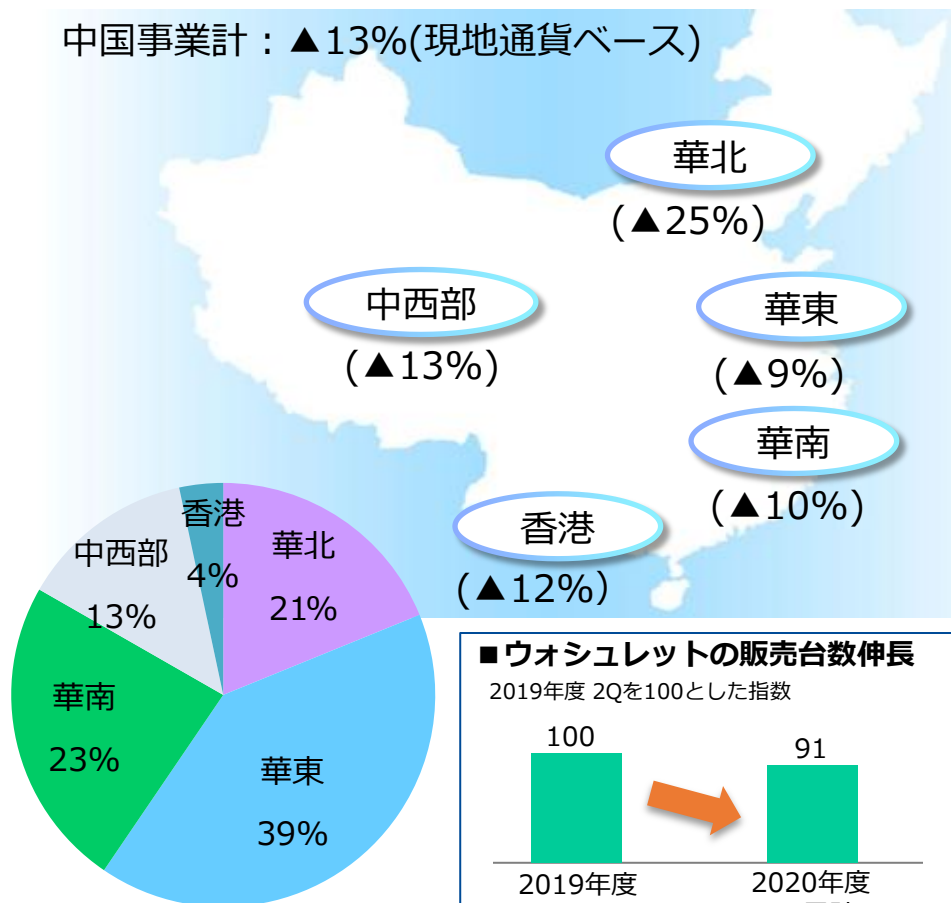
第1四半期の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく影響を受け減収も、製造コストの改善等もあり増益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績（中国）（1月～6月）

### ■ 地域別の売上高伸長率

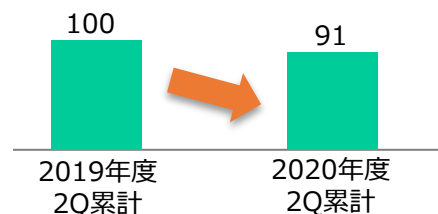
中国事業計：▲13%(現地通貨ベース)



### ■ 地域別の売上高構成比

### ■ ウォシュレットの販売台数伸長

2019年度 2Qを100とした指数

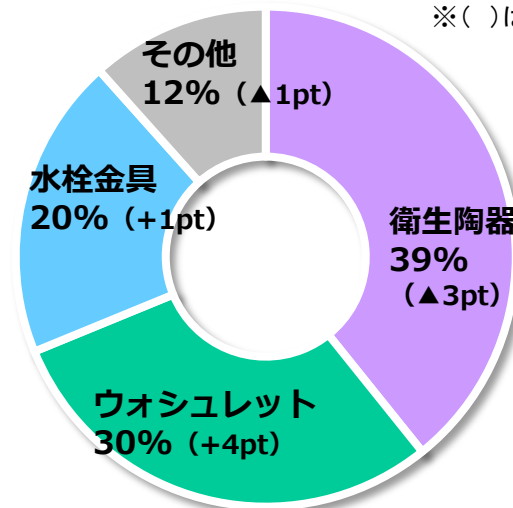


### ■ 商品別の売上高伸長率

	伸長率
衛生陶器	▲20%
ウォシュレット	▲3%
水栓金具	▲10%

### ■ 売上高に占める商品構成比

※( )は構成比の前年差



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全てのエリア、全商品で減収。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績（アジア・オセアニア）（1月～6月）

※連結調整、共通費の配賦等は含まないベース

売上高  
エリア別内訳

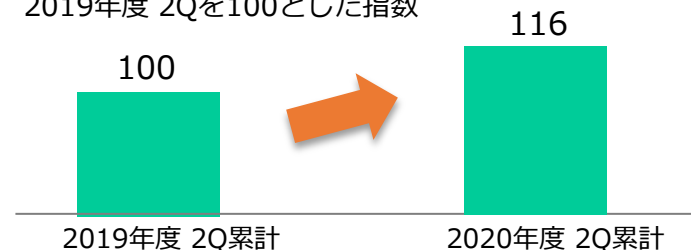
台湾	ベトナム	その他
53%	26%	21%

単位：百万台湾ドル

台湾	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	1,817	1,953	+136 (+7%)	-	+136 (+7%)
営業利益	418	520	+102 (+24%)	-	+102 (+24%)
営業利益率	23%	27%	+4pt	-	+4pt

### ■ウォシュレット販売台数の伸長

2019年度 2Qを100とした指数



■ 3Q伸長：▲10%

第3四半期(7月～9月)の売上高伸長率は、前年同期比+17%

単位：10億ドン

ベトナム	2019年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高 <small>【外部顧客売上高】</small>	1,674 【808】	2,144 【740】	(+28%) (▲8%)	▲255 【▲255】	(+43%) (+23%)
営業利益	209	242	+32 (+15%)	▲119	+151 (+72%)
営業利益率	13%	11%	▲1pt	-	+3pt

第3四半期(7月～9月)の外部顧客売上高伸長率は前年同期比▲22%

為替レート	2019年度 2Q	2020年度 2Q
1台湾ドル	3.53円	3.60円

為替レート	2019年度 2Q	2020年度 2Q
1ドン	0.00469円	0.00460円

台湾は新型コロナウイルス感染症の影響は少なく増収増益。

ベトナムは増収増益。外部顧客売上高は新型コロナウイルス感染症の影響により減収。



# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績（米州）（1月～6月）

※連結調整、共通費の配賦等は含まないベース

P / L

単位：百万ドル

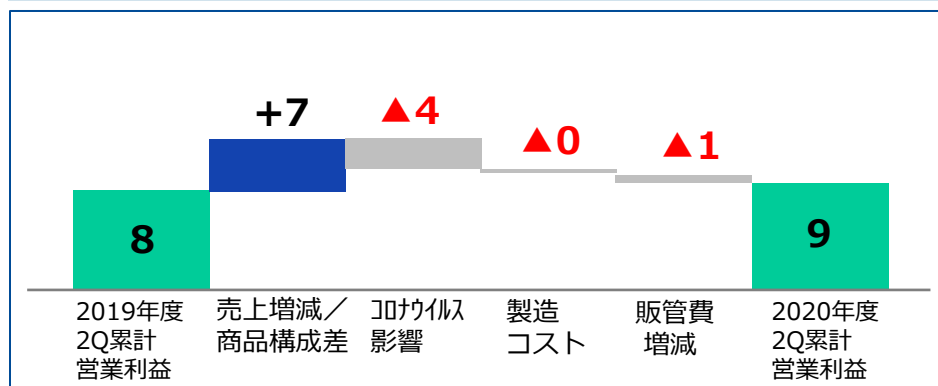
	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	148	143	▲5 (▲3%)	▲33	+28 (+19%)
営業利益	8	9	+1 (+7%)	▲4	+4 (+54%)
営業利益率	6%	6%	+1pt	-	+2pt

第3四半期(7月～9月)の売上高伸長率は前年同期比+27%。

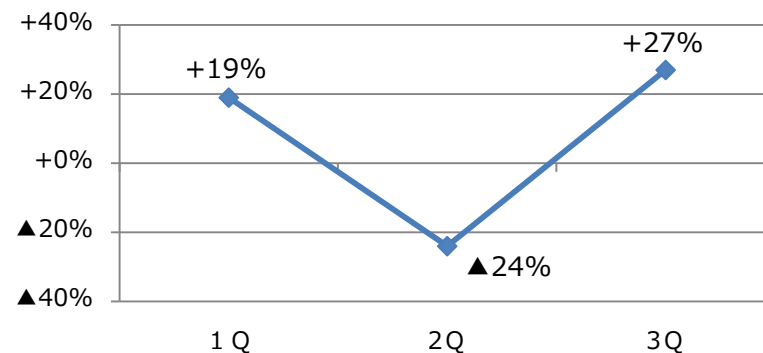
為替レート	2019年度 2Q	2020年度 2Q
1ドル	109.9円	107.6円

### 営業利益の増減要因

単位：百万ドル



### 売上高推移（前年比）



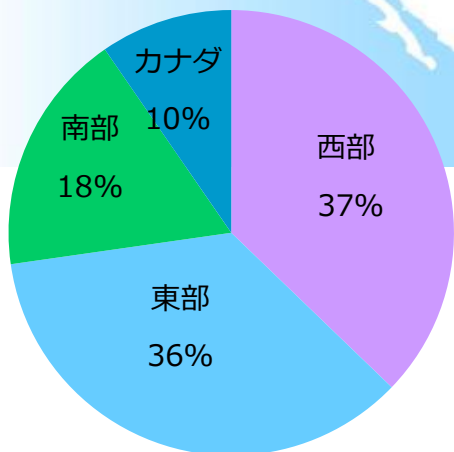
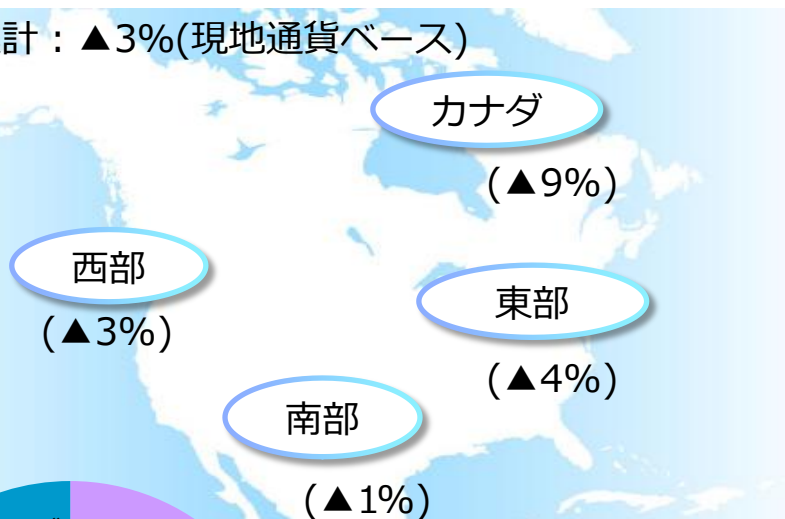
3月下旬より新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減収も、ウォシュレットの販売台数大幅増等により増益。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績(米州) (1月~6月)

### ■ 地域別の売上高伸長率

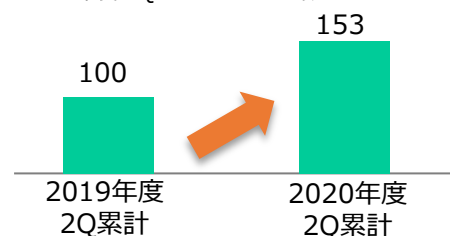
米州事業計：▲3%(現地通貨ベース)



### ■ 地域別の売上高構成比

### ■ ウォシュレットの販売台数伸長

2019年度 2Qを100とした指数



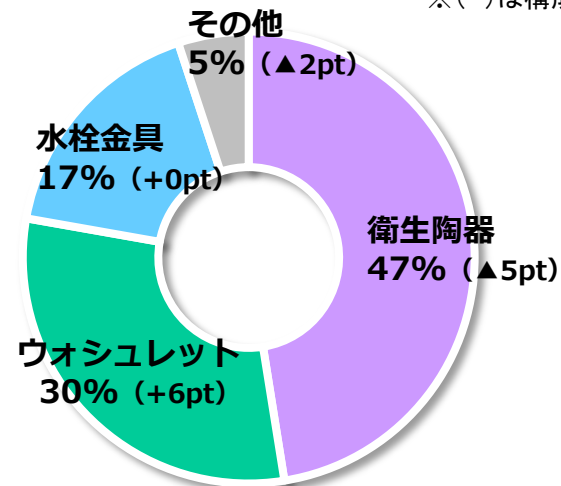
■ 3Q伸長：2.6倍

### ■ 商品別の売上高伸長率

	伸長率
衛生陶器	▲14%
ウォシュレット	+23%
水栓金具	▲6%

### ■ 売上高に占める商品構成比

※( )は構成比の前年差



全エリアで減収。商品別ではウォシュレットが前年を上回った。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 現地グループ会社の業績（欧州）（1月～6月）

※連結調整、共通費の配賦等は含まないベース

P / L

単位：百万ユーロ

	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	15	15	▲0 (▲3%)	▲3	+2 (+16%)
営業利益	▲4	▲2	+2	▲1	+3

第3四半期(7月～月)の売上高伸長率は前年同期比+9%

### ■ 納入現場事例

The Prince Akatoki London（英国）



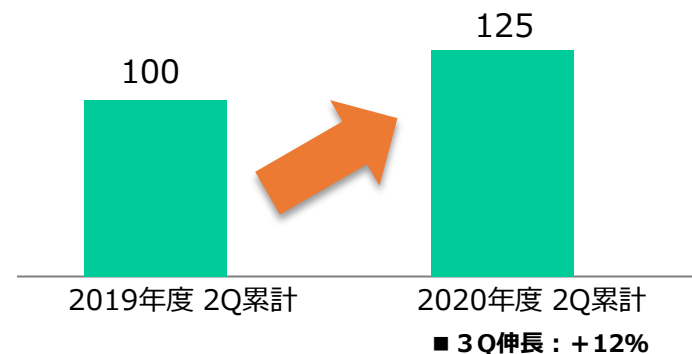
WASHLET RW

ロンドン中心部に位置する、18世紀後半に建てられた建築物をホテルに改装した5つ星ホテルにウォシュレットが採用された。

為替レート	2019年度2Q	2020年度2Q
1ユーロ	123.5円	118.6円

### ■ ウォシュレットの販売台数伸長

2019年度 2Qを100とした指数



減収赤字幅縮小。引き続き流通構築と著名物件採用を推進。

# 2021年3月期 第2四半期決算

## 新領域事業

### セラミック事業

単位：億円

	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	81	98	+17 (+21%)	-	+17 (+21%)	+18 (+22%)
営業利益	▲5	3	+8	-	+8	+8

### 環境建材事業

単位：億円

	2019年度 2Q 累計	2020年度 2Q 累計	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	38	28	▲9 (▲24%)	▲6	▲4 (▲10%)	▲9 (▲24%)
営業利益	▲3	▲4	▲1	▲2	+1	▲1

セラミック事業は半導体市況の回復と歩留改善により増収増益。

# 目次

---

1. 2021年3月期 第2四半期決算

---

2. トピックス

---

3. 2021年3月期 計画

---

4. 持続可能な社会の実現に向けて

## 社外からの評価

### ■ ESG世界的指数

「FTSE4Good Index Series」

2016年から継続選定



FTSE4Good

「MSCI ESG Leaders Indexes」

2007年から継続選定

2020

MSCI ESG Leaders  
Indexes Constituent

同時に年金積立管理運用独行政法人（GPIF）によって採用されている4つのESG投資指数である「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPX カーボンエフィシエント指数」にも継続して選定。



FTSE Blossom  
Japan

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



## 新工場稼働

### ■ TOTOファインセラミックス新工場稼働

強みである製品の高耐久性・高精度とともに、より高い歩留を実現するため、IoT・AI技術を導入し、生産工程の自動化を図った新工場が稼働。供給体制を強化し、増加している主力の半導体製造装置向け静電チャックの受注に対応。



### ■ 工場概要

工場名称	TOTOファインセラミックス 本社・中津工場 第4棟
投資金額	約120億円
生產品目	静電チャック等
着工	2019年1月
稼働	2020年10月

**半導体市場の拡大を見据え、供給体制を強化。  
自動化の推進により、さらなる生産性の向上を図る。**

# 目次

---

1. 2021年3月期 第2四半期決算

---

2. トピックス

---

**3. 2021年3月期 計画**

---

4. 持続可能な社会の実現に向けて



## ハイライト

### 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減収減益

#### グローバル住設事業（日本）：減収減益

- ◆ 上期は新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の制限の影響が大きかったが、下期は回復を見込む。

#### グローバル住設事業（海外）：減収増益 \* 1月~12月（インド除く）

- ◆ 中国：上期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、下期に入り前年比2桁成長となり、増収増益。
- ◆ アジア：台湾は引き続き堅調も、ベトナム等における新型コロナウイルス感染症拡大の影響の長期化により、減収営業利益横ばい。
- ◆ 米州：ウォシュレットの大幅伸長により増収増益。

#### 新領域事業：増収黒字化

- ◆ セラミック事業は半導体市場の需要増により増収黒字化。

# 2021年3月期 計画

## P/L概要

単位：億円

	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	5,965	5,630	▲335 (▲6%)	▲437	+102 (+2%)	▲313 (▲5%)
営業利益 【営業利益率】	368 【6.2%】	310 【5.5%】	▲58 (▲16%)	▲124	+67 (+18%)	▲55 (▲15%)
経常利益	361	295	▲66 (▲18%)	▲125	+59 (+16%)	▲66 (▲18%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	236	175	▲61 (▲26%)	▲106	+45 (+19%)	▲62 (▲26%)
ROA	6.3%	5.2%	▲1.1pt			
ROE	7.0%	5.2%	▲1.8pt			

## ■ 為替レート

	2019年度				2020年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期
1ドル	110.2円	109.9円	107.4円	108.8円	108.9円	107.6円	106.0円
1元	16.3円	16.1円	15.3円	15.4円	15.6円	15.2円	15.4円
1ユーロ	125.2円	123.5円	119.4円	120.3円	120.1円	118.6円	124.0円

上期の新型コロナウイルス感染症の影響により、減収減益の計画となるものの、下期は回復基調。

# 2021年3月期 計画 (参考：下期計画)

P/L

単位：億円

	2019年度 下期	2020年度 下期計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	3,002	3,055	+53 (+2%)	▲84	+137 (+5%)	+56 (+2%)
営業利益 【営業利益率】	193 【6.4%】	204 【6.7%】	+11 (+6%)	▲26	+37 (+19%)	+11 (+6%)
経常利益	182	192	+10 (+6%)	▲24	+34 (+19%)	+9 (+5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112	129	+18 (+16%)	▲20	+37 (+33%)	+16 (+14%)

## ■ 為替レート

	2019年度				2020年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期
1ドル	110.2円	109.9円	107.4円	108.8円	108.9円	107.6円	106.0円
1元	16.3円	16.1円	15.3円	15.4円	15.6円	15.2円	15.4円
1ユーロ	125.2円	123.5円	119.4円	120.3円	120.1円	118.6円	124.0円

下期は増収増益計画。

# 2021年3月期 計画

## セグメント別業績

単位：億円

<売上高>	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
住設事業 (日本)	4,361	4,030	▲331 (▲8%)	▲290	▲41 (▲1%)	▲331 (▲8%)
住設事業 (海外)	1,359	1,345	▲14 (▲1%)	▲140	+126 (+9%)	+6 (+0%)
新領域	242	253	+11 (+4%)	▲8	+19 (+8%)	+13 (+5%)
その他	3	2	▲1	-	▲1	▲1
合計	5,965	5,630	▲335 (▲6%)	▲437	+102 (+2%)	▲313 (▲5%)
<営業利益>	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
住設事業 (日本)	253	160	▲93 (▲37%)	▲85	▲9 (▲4%)	▲93 (▲37%)
住設事業 (海外)	153	170	+17 (+11%)	▲37	+54 (+35%)	+20 (+13%)
新領域	▲4	5	+9	▲3	+12	+10
その他	▲34	▲25	+9	-	+9	+9
合計	368	310	▲58 (▲16%)	▲124	+67 (+18%)	▲55 (▲15%)

日本は減収減益、海外は減収増益、新領域は増収黒字化の計画。

# 2021年3月期 計画 (参考：下期計画)

## セグメント別業績

単位：億円

<売上高>	2019年度 下期	2020年度 下期計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
住設事業 (日本)	2,173	2,153	▲20 (▲1%)	▲68	+48 (+2%)	▲20 (▲1%)
住設事業 (海外)	704	774	+70 (+10%)	▲14	+84 (+12%)	+73 (+10%)
新領域	124	127	+3 (+2%)	▲3	+5 (+4%)	+4 (+3%)
その他	1	1	▲1	-	▲1	▲1
合計	3,002	3,055	+53 (+2%)	▲84	+137 (+5%)	+56 (+2%)
<営業利益>	2019年度 下期	2020年度 下期計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
住設事業 (日本)	123	112	▲11 (▲9%)	▲15	+4 (+3%)	▲11 (▲9%)
住設事業 (海外)	83	100	+17 (+21%)	▲10	+27 (+33%)	+17 (+21%)
新領域	3	6	+2 (+68%)	▲1	+3 (+91%)	+2 (+70%)
その他	▲17	▲14	+2	-	+2	+2
合計	193	204	+11 (+6%)	▲26	+37 (+19%)	+11 (+6%)

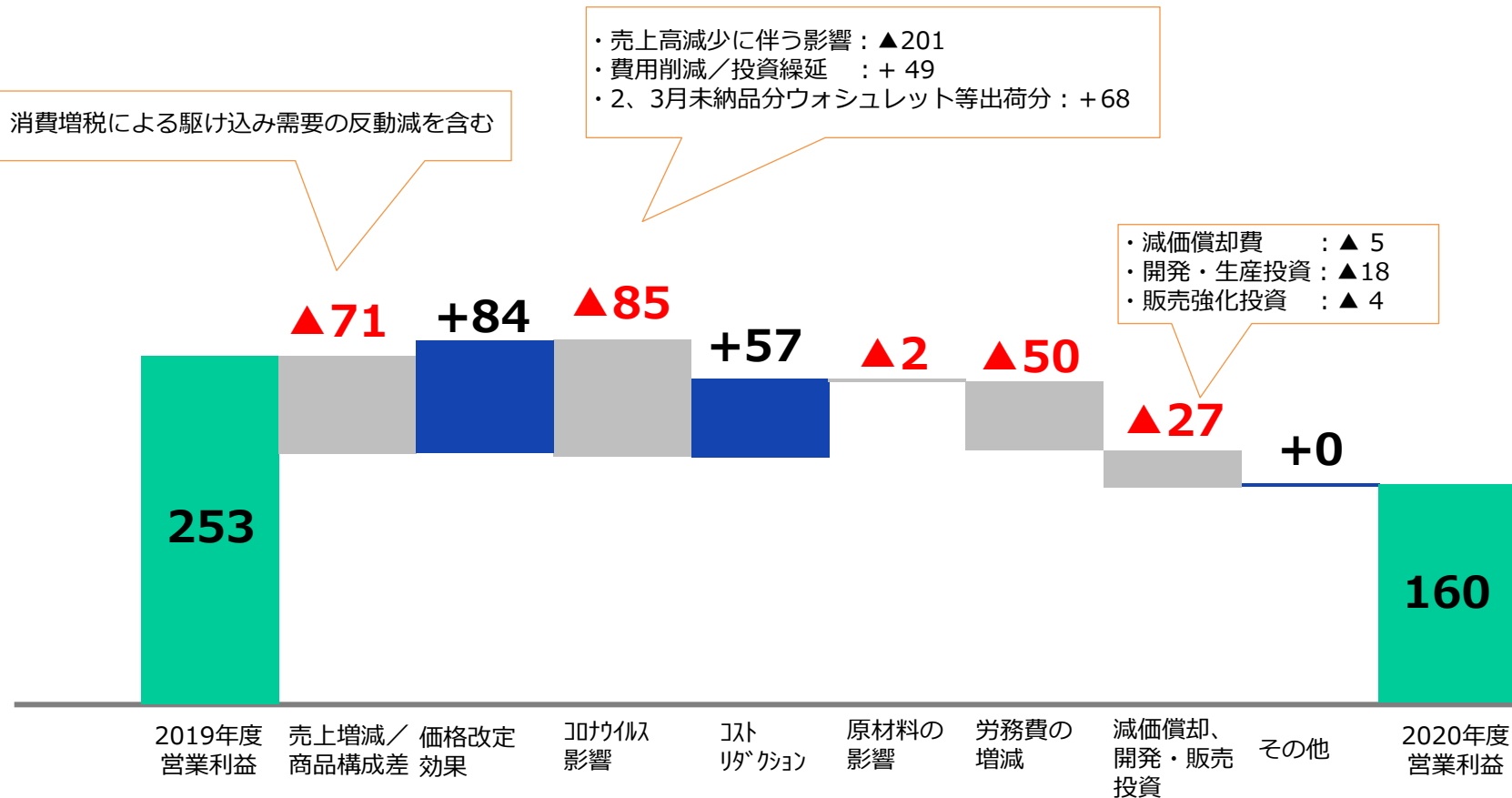
日本は減収減益、海外と新領域は増収増益の計画。

# 2021年3月期 計画

## グローバル住設事業（日本）

### 営業利益の増減要因（前年差異▲93億円の内訳）

単位：億円



# 2021年3月期 計画

## グローバル住設事業（日本）

### 需要別実績

単位：億円

#### <リモデル>

	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	2,969	2,759	▲210 (▲7%)	▲227	+17 (+1%)
営業利益	220	146	▲74 (▲34%)	▲70	▲4 (▲2%)
営業利益率	7%	5%	▲2pt	-	-

#### <新築>

	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)
売上高	1,392	1,271	▲121 (▲9%)	▲63	▲58 (▲4%)
営業利益	33	14	▲19 (▲58%)	▲15	▲4 (▲13%)
営業利益率	2%	1%	▲1pt	-	-

リモデル、新築とも減収減益の計画。

# 2021年3月期 計画

## グローバル住設事業（海外）

単位：億円

売上高	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス	コロナウイルス影響額除	為替影響除 前年差 (前年比)
				影響額	前年差 (前年比)	
中国	670	675	+5 (+1%)	▲37	+42 (+6%)	+19 (+3%)
アジア	326	284	▲42 (▲13%)	▲72	+30 (+9%)	▲42 (▲13%)
米州	325	346	+21 (+6%)	▲24	+45 (+14%)	+27 (+8%)
欧州	38	40	+2 (+6%)	▲6	+9 (+23%)	+3 (+7%)
合計	1,359	1,345	▲14 (▲1%)	▲140	+126 (+9%)	+6 (+0%)
営業利益	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス	コロナウイルス影響額除	為替影響除 前年差 (前年比)
				影響額	前年差 (前年比)	
中国	102	106	+4 (+4%)	▲2	+6 (+6%)	+7 (+7%)
アジア	54	53	▲1 (▲2%)	▲30	+29 (+54%)	▲2 (▲3%)
米州	6	23	+17 約3.6倍	▲2	+19 約4.2倍	+17 約3.7倍
欧州	▲10	▲12	▲2	▲2	▲0	▲2
合計	153	170	+17 (+11%)	▲37	+54 (+35%)	+20 (+13%)

中国、米州は増収増益。アジアは減収営業利益横ばい。



# 2021年3月期 計画

## 新領域事業

### セラミック事業

単位：億円

	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	167	193	+26 (+16%)	-	+26 (+16%)	+28 (+17%)
営業利益	▲1	9	+10	-	+10	+10

### 環境建材事業

単位：億円

	2019年度	2020年度 計画	前年差 (前年比)	コロナウイルス 影響額	コロナウイルス影響額除 (前年比)	為替影響除 (前年比)
売上高	75	60	▲15 (▲20%)	▲8	▲7 (▲10%)	▲15 (▲20%)
営業利益	▲4	▲4	▲0	▲3	+2	▲0

セラミック事業は半導体市況の回復と歩留改善により増収黒字化。

# 2021年3月期 計画

## 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移

	2019年度	2020年度
設備投資額	605億円	334億円
減価償却費	253億円	260億円
研究開発費	215億円	228億円

### ■ 2020年度 設備投資内訳

住設事業（日本）	<ul style="list-style-type: none"><li>・販売物流システム再構築</li><li>・ショールームの新設・更新</li><li>・生産設備関連 等</li></ul>	約207億円
住設事業（海外）	<ul style="list-style-type: none"><li>・新商品開発関連</li><li>・生産設備関連 等</li></ul>	約112億円
新領域	<ul style="list-style-type: none"><li>・セラミック関連設備投資 等</li></ul>	約15億円

# 2021年3月期 計画

## 配当計画

	2019年度	2020年度
中間	45.0円	30.0円
期末	45.0円	30.0円
年間計	90.0円	60.0円
配当性向	64.6%	58.1%

### 【株主還元の考え方】

配当性向は連結当期純利益の40%を目途とし、安定的な配当を維持いたします。

**2020年度の配当は60円。**

# 目次

---

1. 2021年3月期 第2四半期決算

---

2. トピックス

---

3. 2021年3月期 計画

---

**4. 持続可能な社会の実現に向けて**

# 持続可能な社会の実現に向けて

## 経営とCSRのさらなる一体化を図り、SDGsに貢献する

「健康で文化的な生活を提供したい」という創立者の志は、「TOTOグループ企業理念」として今も社員一人ひとりに脈々と受け継がれています。一世紀にわたって受け継いできたこの思いこそがTOTOグループの経営の根幹であり、ものづくりや販売活動の原点です。

これからも、社会が求める価値ある商品やサービスを提供するとともに、CSR活動の推進を通じて、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標達成に貢献していきます。



社会の発展に貢献し、世界の人々から信頼される企業を目指します。

# 持続可能な社会の実現に向けて

## 国連グローバル・コンパクトが提唱した 「新たなグローバル協調のためのビジネスリーダーの声明」に署名

TOTOは、国連グローバル・コンパクトの提唱した「新たな国際協力のためのビジネスリーダーからの声明」に署名しました。

この声明は、9月21日の国連総会で、100を超える国・地域の、1000人以上のビジネスリーダーの署名とともに発表され、国連事務総長へ提出されました。



**1000+**  
CEOs have answered our call to sign  
a Statement from Business Leaders  
for Renewed Global Cooperation —  
a resounding endorsement of  
inclusive multilateralism.

#UnitingBusiness

この声明は、世界的パンデミックと気候危機という状況である今、国連本来の連帯の精神にたちもどり、人権が尊重され、平和で安全で持続可能な社会を実現してほしいという企業リーダーの強い要望を伝えるため、75周年という節目の年をむかえた国連の総会会期中である2020年9月21日に、アントニオ・グテーレス国連事務総長へ提出されたものです。

今後も、国連グローバル・コンパクト10原則の実現とSDGsの達成に向けた取り組みを推進していきます。

# 持続可能な社会の実現に向けて

## きれい・快適を世界で実現する

### 新型コロナウイルス感染症がもたらした「新しい日常」

衛生性

非接触

手洗い・トイレの清潔さの重要性

### 商品・提案を通じた価値の提供

3 すべての人に健康と福祉を



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



11 住み続けられるまちづくりを

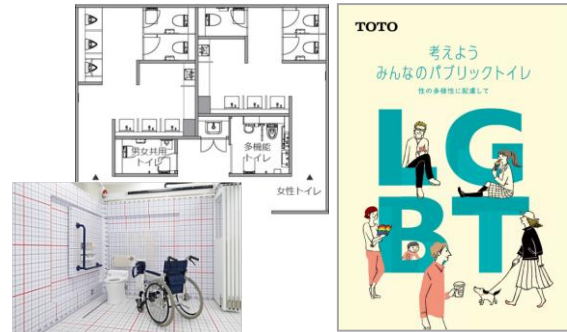


■ 衛生性：クリーンシナジー



左：自動水栓、自動石鹸水供給栓  
中：自動洗浄システム

■ 非接触需要への対応



■ 100年以上の知見と実績による提案力

「世界の人々に快適な生活を提供したい」という想いのもと、新しい生活様式に対応した、TOTOだからこそできる役割を果たす。

# 持続可能な社会の実現に向けて

## パブリックトイレの「きれいと快適」の実現

### ■ 日本財団が行う渋谷区公共トイレプロジェクト「THE TOKYO TOILET」に参画



代々木深町小公園トイレ（デザイン：坂 茂氏）

神宮通公園トイレ（デザイン：安藤忠雄氏）

日本財団は渋谷区の協力により、性別、年齢、障害を問わず、誰もが快適に使用できる公共トイレを区内17カ所に設置する。設計は世界で活躍する16人の建築家・デザイナーが担当。TOTOはアドバイザーとして現状調査と設置機器を含めたトイレ空間のレイアウト提案。

撮影：永禮賢 提供：日本財団

### ■ 廿日市市との官民協働で設置する観光地トイレ「TOTO宮島おもてなしトイレ」



### ■ 成田国際空港とのコラボレーションによる「GALLERY TOTO」



©DAICI ANO

公共施設、オフィス、学校、病院などのパブリックトイレにおいて、地域と連携しながら、「きれいと快適」の実現を目指していく。



このプレゼンテーション資料は、2020年10月30日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

あしたを、ちがう「まいにち」に。

**TOTO**